

緊急

盛夏期の長雨に対する農作物等の緊急技術対策について

岡山県農林水産総合センター
岡山県農業気象技術連絡会議

8月12日に広島地方気象台が発表した中国地方週間天気予報（予報期間8月13日から8月19日まで）によると、向こう一週間は、低気圧や前線の影響で雨が降る日が続き、17日頃にかけて、前線の活動が活発となり大雨となる所がある見込みです。

長雨に対する農業気象技術対策情報を取りまとめましたので、本対策を参考に適切な技術対策をお願いします。

1 水稲

(1) 早生品種

- ・早い地域で8月下旬頃から収穫が始まる見込みであるが、本年産は7月中旬までの降雨により中干しが十分にできていないほ場が多く倒伏の発生が懸念される。そのため、可能な限り間断かんがいに努めるとともに出穂後30日頃を目安に落水する。
- ・収穫間近で倒伏し、穂が地面に付いている場合は、株の上に穂を持ち上げるようにして、穂の乾燥を促す。
- ・収穫を雨の合間をぬって行う場合、籾水分が高くなりコンバイン収穫時に損傷粒が増加して、選別性能も低下するため、作業速度を下げるとともに、こぎ胴回転数を調整する。
- ・収穫量は乾燥機の処理能力に応じた量とする。また、ヤケ米や着色粒を防止するため、収穫した籾はなるべく早く乾燥機で処理できるよう計画する。
- ・倒伏や穂発芽等の被害がある場合は、全体の品質低下を防ぐために、健全なものと仕分けて収穫・乾燥・調製する。
- ・急激な乾燥は胴割れ等の品質低下や食味低下の原因となるため、初期水分が高いほど送風温度を低くすることとし、穀温は35℃以下、乾減率は0.8%/h以下で乾燥する。

(2) 中生・晩生品種

- ・中生品種、晩生品種とも幼穂形成期～穂ばらみ期となっているが、この時期は根腐れ防止のため浅水管理が基本であり、降雨が続く場合は排水に努める（穂ばらみ期～出穂期は湛水状態を保つ）。
- ・病虫害発生予報第5号（令和3年8月4日）で葉いもち（中生・晩生品種）は、発生ほ場率が平年より高く、発生量は「やや多」と予報されている。今後降雨が続くと穂いもちの発生につながる恐れがあるため防除を徹底する。

2 大豆

- ・湿害を回避し根の活力を維持するため、ほ場排水が速やかに行われるように、明渠など排水路の点検と整備を行う。

- ・茎疫病の発生が懸念されるため、罹病株を除去するとともに、発生初期に薬剤防除を実施する。
- ・紫斑病は結実期に降雨が多いと多発するので、開花 20～40 日後に 10 日間隔で 2 回薬剤を散布する。

3 果樹

(1) モモ

- ・モモは果樹の中でも特に湿害に弱いので、停滞水を速やかに排除するとともに、園地周辺の排水路を点検する。
- ・晩生品種では、成熟前の降雨により日持ち不良が懸念されるため、適期収穫に努めるとともに、収穫後の果実の取り扱いに注意する。
- ・誘引、枝吊り、夏季せん定等の枝管理を徹底して、結果部位の日当たり向上に努める。

(2) ブドウ

- ・園内の停滞水を速やかに排除するとともに、園地周辺の排水路の点検を実施する。
- ・着果している作型や品種では、かん水を控えて裂果を防止する。
- ・裂果や腐敗果の有無をこまめに確認し、見つけ次第除去する。
- ・簡易被覆栽培等では、べと病が発生しやすくなるので、再伸長する副梢の整理など耕種的防除と薬剤散布を組み合わせる防除する。

(3) ナシ

- ・園内の停滞水を速やかに排除するとともに、園地周辺の排水路を点検する。
- ・誘引等の枝管理を実施して、結果部位の日当たり向上に努める。
- ・黒星病等の防除を徹底する。

4 野菜

(1) 野菜全般

- ・降雨が続いた場合、肥料成分が流亡するが多いので、草勢を観察して遅れないように速効性肥料を中心に追肥を行う。
- ・病害に侵された葉は早めに摘みとってほ場外に持ち出し、伝染源を除く。また、降雨の合間をみて早期防除に努める。
- ・排水溝の点検を行うとともに、浸冠水したほ場は、早急に排水する。

(2) 果菜類

- ・光量不足になりやすいので、整枝、摘葉を適正に行い、採光をよくする。ただし、降雨直前及び降雨中は整枝、摘葉をひかえる。
- ・不良果を中心に摘果を行い、着果負担を軽減して草勢の回復を促す。
- ・訪花昆虫を導入しているほ場でも、曇雨天が続く花質が低下した場合は、着果促進処理を行う（トマト）。

5 花き

(1) 露地花き（キク、リンドウなど）

- ・降雨により、根の活性が低下し養分吸収が悪くなっているため、適時、葉面散布剤等を散布し、生育の回復を図る。
- ・キクでは白さび病や黒斑病等、リンドウでは葉枯病や褐斑病等の病害が発生しやすいので、晴れ間をみて薬剤散布を行う。

(2) 施設花き（バラ、カーネーション、トルコギキョウなど）

- ・曇雨天が続くと生育が軟弱になっているので、天候が回復ししだい整芽や整枝を行い、通気や採光をよくする。
- ・灰色かび病や立枯病などの病害が発生しやすいので、薬剤散布を行う。また、施設内攪拌扇や換気扇などにより、ハウス内の空気の循環や換気を図る。

(3) 共通事項

- ・曇雨天が続いた場合、植物体が軟弱徒長気味の生育をしており、薬剤散布は涼しい時間帯に行い、薬害の発生に注意する。特に開花中のものに関しては注意する。

6 飼料作物（とうもろこし、ソルガムなど）

- ・耐湿性が弱く、湿害により大幅な収量低下となるので、地表に停滞した水を迅速に排除し、湿害防止に努める。
- ・降雨の湿害による生育不良のもの、追肥をしていないものでは、早急に施肥し、生育促進を図る。

7 家畜

- ・畜舎内が高湿多湿になると、家畜の生産に影響を及ぼすので、強制換気により畜舎内の通気をよくし、湿気がこもらないようにする。
- ・牛床の汚染は疾病や乳房炎発生の原因となるので、こまめな除ふんと敷料の交換、消石灰の散布により、牛床を乾燥させる。
- ・飼槽の清掃を行い、新鮮な餌を給与する。特に混合飼料を不断給餌している牛群は、残餌の変敗や発酵による事故防止に努める。
- ・畜舎周辺の排水、運動場のぬかるみ対策などを速やかに行う。